埼玉純真短期大学研究論文集　第 10 号　PP.87-96

「乳児と保育者のリズムの共有におけるリーダーとフォロアーの関係」

Relationship between leader and follower in rhythm synchronization of infants and Child Care Person.

持　田　京　子
（常勤講師）

要旨　保育所における０歳児の乳児３人が保育者とリズムを同調する過程を，岩城涼らが述べる「幼児と養育者の同調におけるリーダーとフォロアーの役割」から観察した結果，乳児がリズムを他と同調するまでのプロセスで，乳児と保育者の間で「リーダーとフォロアーの役割」が成立することが保育者の報告から分かった。リーダーが保育者の場合が最も多かったが，短い時間だが子ども同士で，リーダーとフォロアーになる場合も多く観察された。乳児は人とリズムを共有するには，リーダーやフォロアーの関係性を経て共有していたが，そこには，力学的な引き合いだけでなく，「快」や「喜び」など多くの動機が存在し，乳児がそれぞれの特性に応じて関わる人と「共同者」となってリズムを共有していく過程がみられた。

【キーワード：乳児　保育者　リズムの同調　リーダー　フォロアー　共同者**】**

Ⅰはじめに

日本にダルクローズのユーズリトミックを普及させた小林宗作（1978）[1] は，「総合リズム教育概論」において「事の起こりはリズムだった」として，幼児教育におけるリトミックを，子どもの全面的な発達を促す「総合リズム教育」と位置付けている。小林は自然界や吾々の生活の中で「人間はあらゆる随意筋に依って本能的にリズム振動を感ずるものである。」と捉える。さらに小林はリズムの意識は全身の繰り返す運動によってのみ獲得され，その繰り返しによって筋肉の記憶が獲得され，音の記憶の獲得へつながることを述べている。小林は音楽教育において「はじめにリズムありき」と考え，子ども本来が持つリズム感，その躍動感を育てる大切さを述べているのである。また小林は「リズムの表現及びリズム運動の反射作用は吾々のあらゆる筋肉に潜在せる能力である。」「リズム運動はリズムの意識の可視的表現である。一方は絶えず他の者に接続し，両者は不可分離に互いに組み合っている」ことを述べ，外界との関係によって「リズム意識を醒し明らかにし，変形し，かつ完全にする等の諸訓練」の必要性を述べている。そしてリズム教育を，まず子ども個々が諸感覚の統合によって自然に感じるリズム意識を育てることが大切であり，自然リズムと藝術リズムの交通への道を開き，子どもが他と調和して，心と体が全面的に発達させる重要性を述べる。

保育現場でよく見られる光景で，乳幼児は幼いほど，保育者と身体を密接に接触してつながる機会が多い。そして実際に乳児が不快で泣いているときに，保育者が自然に抱きあげて歌いかけるなどしながらトントンとリズムカルに軽く背中を叩き，乳児が泣きやむときがある。乳児は単にトントンとされているのではなく，乳児自身も潜在する能力でリズムを感じ，他とつながることを感じているのだろう。こういった行為は，無意識とはいえ，子どものリズム意識を覚ましているといえるのではないだろうか。このような子どものリズムと保育者のリズムの関係に関する研究の動向を探ったところ，岩城諒（2014）[2] らは，幼児と養育者の身体的なリズムパターンの同調は，母子の良好な関係を築くだけでなく幼児の社会的な発達に寄与すると述べている。そして「幼児と養育者の二個体間でリズムパターンが一致するための役割は，リーダー（リズムパターンを先導する），フォロアー（リズムパターンを追従する）と分担される」という。そして岩城らは，能動的な制御がなくとも，両者の運動能力の非対称性によりリズムパターンの同調が達成されるという仮説を立て，Recurrent Neural Network with Parametric Bias（RNNPB）を 使ったシュミレーション実験検証を行った。その結果，岩城諒（2014）らは「身体運動のリズムパターンを養育者と乳幼児はしばしば一致させるが，複数でリズムを共有する場合，その時の役割は均等とは限らず，どちらかが「リーダー」または「フォロアー」の役割を担っていると述べる。さらに，力学的なシステムにより，相互作用させる２体のロボットを作成し，一方をリズムパターンの生成・認識を成熟済み，

他方を未成熟として，100回の実験を行った結果，能動的な制御をしなくても，同調のための力学的な役割分担が成立し力学的に養育者と乳幼児の多様なリズムパターンの同調が生み出されていく可能性をについて述べている。しかし，実験の限界として，これらの同調には動機がないことにも言及している。

実際の保育現場においては，生きた感情を持った保育者と乳幼児が日々生活しており，そこでは偶然性も含めた多様なプロセスを経て，リズムを合わせていく。多様な育児や子育てがある現代社会であり，多くの時間を保育所で過ごす乳幼児も多くなっている。また，筆者の経験からも，昨今，園は多忙になっている。このようなとき，園で乳児が保育者や関係者とリズムを共有することに着目することは，今後の集団保育の生活に何らかの形で寄与できるのではないかと考えた。本研究では，岩城らが養育者とリズムが一致するためには，リーダーとフォロアーの役割が分担されると述べていることを仮説として，保育者と乳幼児がリズムを合わせる過程を臨床的に探ることにする。

Ⅱ　方法

対象　S市内の保育室の0歳児担当保育者3名と通所乳幼児3名

A園　女性保育者3名（20代2名・30代1名）観察対象児　0歳児3名（A子8ヵ月・M男9カ月・S男11か月）

保護者にも同意をいただく

期間　2015年9月×日～×日の5日間

倫理的配慮　園長，保育者，保護者に内容を説明し，同意のもとで行った。また，その際に園と個人の匿名性が守られることを説明した。

方法　保育園の生活の中で，保育者が子どもとリズムを合わせていると感じた内容を記録してもらう（但し，原則はCD等の電源は使わないとしたが，子どもが求めるときは，その限りではないとした）その記録を分析して，子どもと保育者がリズムを合わせる関係性を，岩崎が述べる「リーダ」と「フォロアー」から探る。

注：本研究で述べる「リズムの同調」とは，特定の周波数による共振ではなく岩城がのべるように「乳児が他と複数でリズムを共有する」同調とする。

結果を経験年数10年の保育士J，園長に客観的に見てもらい，意見をもらう。

Ⅲ　結果

1，24事例（巻末掲載）から抜粋

(1) A子（8か月）

（資料1・事例2）

A子が昼寝から起きると機嫌が悪く，おむつを替えても，抱っこをしてもぐずぐずして泣く。膝の上にのせて前向きに抱き，「がったんこーがったんこー」（電車ごっこ）といいながら，体をゆすると，泣き止み，一緒に体をかたむけるような感じで，私にぴったり背中をくっつけてくる。」何度もがったんこをする。次第に二人で合わせているような感じになる。（1保育士）

（リーダー保育者・フォロアーA子⇒リズムの同調）

（資料1・事例3）

機嫌よく寝転んで，声を出しているA子を覗き込んで「ちょちちょち　あわわー　かいぐりかいぐりーーー」と手遊びをA子の身体の手や足を動かして行う。A子は保育者に身をゆだねて行い，「アーアー」と声を出す。かいぐりかいぐりで声を出して笑い，手足を何回もばたばたする。繰り返し行う（I保育士）

（リーダー保育者・フォロアーA子⇒リズムの同調）

（資料1・事例8）

保育者に支えられ，バウンサーにつかまり立ちをして自分でバウンサーをゆらして保育者と遊ぶ。ハイハイしてきたS男が保育者に支えられて加わるとA子は泣き始める。

（リーダーA子・フォロアー保育者×リズムの同調）

(2) M男　9か月（観察中に10か月）

（資料2・事例1）

おむつを取り替えるときにM男がじっとしていないので，保育者が「まっててねー。まっててねー。」と歌うように言いながら，小さな熊を持たせて身体をさする。 M男は，小さな熊を持って「まっててねー」の歌いかけを聴き，気持ちよさそうに保育者の目を見ている。

（リーダー保育者・フォロアーM男＝リズムの同調）

（資料2・事例4）

座って「アッウー」と声を出しているM男の前に保育者が座り真似して「アッウー」と声を出すと，M男が「アッアー」と声を出しその後やりとりのようになる。

（リーダーM男・フォロアー保育者⇒リズムの同調）

（資料２・事例５）

M男は，少し離れたところで保育者がＦ子（1歳8か月）とジャンプして遊んでいるのを，ベッドの柵につかまり立ちをしてじっと見ている。Ｆ子が大声で笑いながらジャンプをすると，M男もジャンプをするように身体を上下に動かす。保育者に「Mちゃんも上手」と言われてにこにこする。その後もＦ子がジャンプすると上下に身体を動かす。

（リーダーＦ子・フォロアーM男⇒リズムの同調）

（資料２・事例７）

おやつのミルクを飲み終えて，足でベッドの端をトントン蹴飛ばす。そこに来たＴ子（2歳0か月）が，ベッドの柵から手を入れて，M男をトントンと優しくたたく。M男は満足げにじっとしている。

（リーダーＴ子・フォロアーM男⇒リズムの同調）

(3) Ｓ男　11か月

（資料３・事例３）

S児は，登園後ご機嫌で，大好きなブロックを両手に持ってカチャカチャしてブロック同士が当たって音がすると「ウオーッ」と喜びの声をあげる。保育者が前に座り，ブロックを両手に持ちカシャカシャすると，S男が保育者の持つブロックと重ねて，カシャカシャとならそうとする。うまく合わずになかなか音が鳴らない。しかしたまたま鳴ると，またウオーッと大声を出して喜び，保育者と大笑いをして続ける。

（リーダーＳ男＆保育者　リズムの同調）

（資料３・事例４）

保育者が部屋に遊びに来たＩ男（2歳４か月）と両手をつなぎながら回って,「とんぼのめがね」を歌って踊る。Ｓ男が傍らに来ると，Ｉ男はＳちゃんもやる？と座っているＳ男の手をつなぎ３人が輪になって両手を振る。Ｓ男も身体を一緒に揺すり，笑顔である。

（リーダーＩ男・フォロアーＳ男＆保育者⇒（同調）

図１　資料３・事例３（自分でブロックを叩くS男）

図２　資料３・事例３（ブロックを合わせようとするS男）

（資料３・事例８）

保育者が部屋の向こう側にいるS男を「Sちゃんおいで」と呼び,「Sちゃん，Sちゃん」と拍手をしながら，リズムを付けて呼ぶ。ハンカチで遊んでいたS男はリズムにのるようにハイハイしてくる。

（リーダー保育者・フォロアーS男⇒（同調）

乳児がリズムを同調する過程を24例から，保育者が感じたリーダーとフォロアーの関係を聞いてみると，以下の方１～３の結果が見られた。

特に８か月のＡ子は保育者がリーダーになることがほとんどであったが，月齢が９か月末のＭ男や11か月のS男は，リーダーが一方ではなく，双方がリーダーになることが見られた。そして，他児が参加している回数もやや多くなった。また11か月児おいては，身体だけでなく「もの」を使って合わせようといった知恵を伴った，同調もみられるようになった。また，保育者が乳児とリズムの同調を感じているときは，乳児も機嫌がよいが，事例1-3の様に他児が加わることで，同調が途絶えたため，乳児がある程度人を選び同調することが分かった。

役割（８事例中）	保育者	Ａ子	他児
リーダーになった回数	7	1	0
フォロアー	1	7	1

表１　Ａ子　リズム同調までの役割（保育者が考察）

役割（事例中）	保育者	M男	他児
リーダーになった回数	2	5	1
フォロアーになった回数	1	3	4

表２　M男　リズム同調までの役割（保育者が考察）

役割	保育者	Ｓ男	他児
リーダーになった回数	3	3	2
フォロアーになった回数	3	5	0

表３　Ｓ男　リズム同調までの役割（保育者が考察）

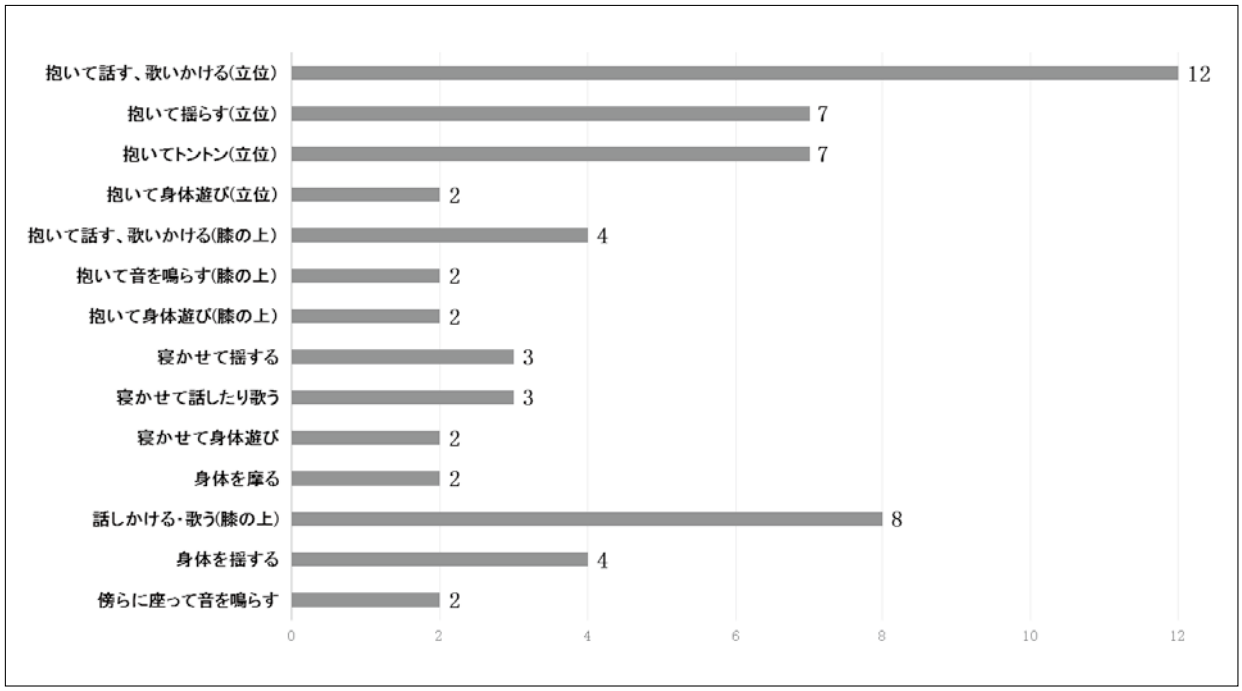

図3　保育者が乳児がリズムを同調していると感じたときにとっていた方法（24事例より）

保育者が乳児とリズムを同調している，と感じたときにとっていた（方法）は歌いかける，身体遊び，話しかける音を鳴らすなどさまざまであった。

また，保育者がリズムを同調していると感じた時の乳児の様子は24例中（資料参照）中で以下のような結果が見られた。

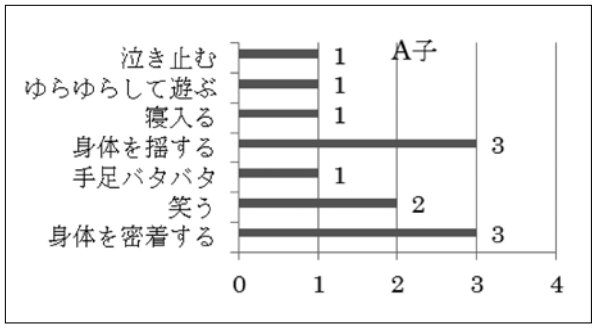

図4　A子（8か月）リズムを同調しているときの様子

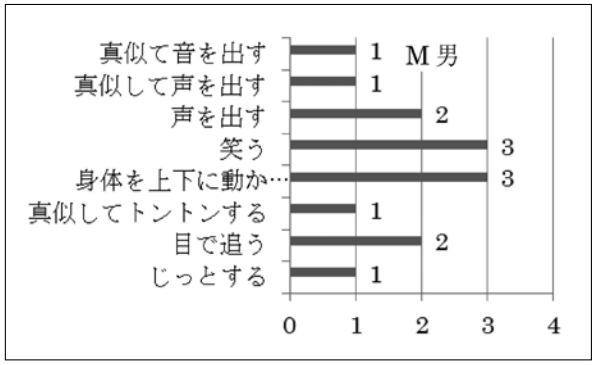

図5　M男（10か月）リズムを同調しているときの様子

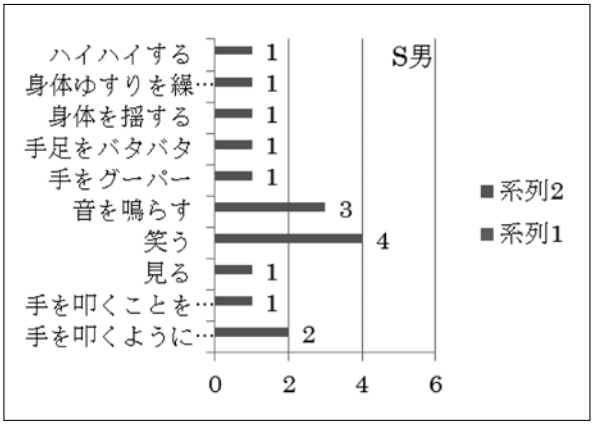

図6　S男（11か月）リズムを同調しているときの様子

月齢8か月のA子よりも，月齢が進んだ10か月のM男の方が動きが見られ，また身体性の模倣が出てくる。さらに月齢の進んだ11か月のS男においては，細かい手の動きや道具を使って音を鳴らすこと，また「その動作を繰り返しやってみる」が増えてくることが見えた。保育者側から見た同調しているときの子どもの様子は以下の変化が見られた。

8か月　身体性・顔の表情
9か月　身体性・顔の表情・模倣
11か月　身体性・顔の表情・模倣・繰り返し

Ⅳ　考察

岩崎らが養育者とリズムが一致するためには，リーダーとフォロアーの役割が分担されると述べていることを仮説として，保育者と乳幼児がリズムを合わせる過程を観察したところ，ほとんどの事例において，保育者と乳児がリーダーやフォロアーとなって，リズムを共有して同調することが観察された。

事例からの考察

（A子　8か月）

資料1･事例2ではぐずっているA子（8か月）に，保育者が膝の上を電車に見立て，A子と電車のリズムで遊ぶ。A子は，電車の意味は分からなかったかもしれないが,保育者にぴったり身体を付けて，そのリズムを味わっている。この事例では初めは保育者がリーダーでA子を誘い，A子がフォロアーだが，保育者に身を付けて一緒にリズムを味わうところでは，すでにフォロアーではなく対等であると考えられる。資料1・事例5では，保育者が機嫌のよいA子に「一本橋こーちょこちょ」の手遊びを仕掛ける。初めは保育者のなすがままにしていて，保育者がリーダーであるが，次第に声を出して「あーあー」と笑って手足をバタバタさせるところでは，既に保育者と対等にリズムを共有していると考えられる。資料1・事例8では，A子自身が積極的にバウンサーを揺らして，保育者とリズムを味わっているが，他児に邪魔されたことに対して怒って泣く姿が見られる。これらから，8か月のA子はリズムを楽しみ，単に一人ではなく保育者と一緒に味わい共有することに安心や喜びを感じていることがうかがえる。

M男（10か月）

資料2・事例1では，M男が「まっててねー」のリズムある保育者の歌いかけで，身体を摩ってもらう。初めはじっとしていないM男に保育者がリーダーとなって「歌いかけ」のリズムを提供するが，次第にその気持ち良さを一緒に味わい，おむつの取り換えに協力するところでは対等にリズムを味わっていると考えられる。資料2・事例2では，M男（10か月）は，F子（1歳8か月）と保育者が一緒にジャンプしている姿を見たり声を聞いて楽しそうに思ったのか，自分でもベッドにつかまり立ちをして，身体を上下に動かす。初めはF子や保育者がリーダーになっているが，M男が自分から身体を動かすところでは，既に対等にリズムを味わっていると考えられる。資料2・事例7でもM男は初めはベッドの柵をけって遊んでいたが,優しいT子（2歳0か月）にトントンされて，そのリズムを一緒に味わっている。ほんの短い時間であるが,T子がリーダーとしてトントンすることに対して，フォロアーのM男も一緒にリズムを共有することで対等になる。乳児や幼い幼児同士だけでもリーダーやフォロアーになる可能性が見える事例である。

（S男11か月）

資料3・事例3では，S男がブロックをカチャカチャ鳴らして遊んでいるのに興味を持った保育者に対して，S男から保育者の持ったブロックを鳴らそうと試みている。ここではS男がリーダーであり，それに対して保育者がフォロアーとなってブロックの音を鳴らそうとする。しかし音が鳴るとS男も保育者も大笑いをして続ける。ここでは，両者とも対等にリズムを楽しんでいるといえる。資料3・事例4では，友達のI男（2歳4か月）に手をつないでもらい，保育者と3人で身体を揺すって「とんぼのめがね」を一緒に味わっている姿がある。初めはS男も入れて遊び始めたI男がリーダーであるが，その後I男，S男，保育者と3人で「とんぼのめがね」のリズムを味わっている。今までの事例では乳児は1対1でリズムを味わっていたが，11か月になると複数でも一緒にリズムを味わえる可能性が見えた事例である。資料3・事例8では，保育者の呼びかけと拍手に応じてハイハイを始めたが2人は共同者になって一緒にリズムを味わっていると考えられる。

2，乳児のリズム意識の目覚めとリズムの共有

これらの事例を検討してみると，ほとんどの事例において，保育者や乳児の始めの役割はリーダーやフォロアーであったが，乳児がリズムに気付く過程で，次第に「リズムの共有者」として両者が対等にリズムを共有する姿が見られた。梅本堯夫(2004)[(3)] は「環境の事物にも，またわれわれ人間自身にもリズムがあるので―略―人間は環境世界の事物や事象の変化のリズムに自らを合わせていかなくてはならない」「このことは，即ちリズム知覚であり，リズムの同期である」と述べ，無力で世話を必要とする乳児は，親や世話をしてくれる人の行為のリズムに合わせる必要性があると述べる。

今回の研究で，保育者が乳児と「リズムを同調した」と感じたときには，身体性の密着が最も多かった。しかし，そのときの個別な乳児の様子を見ると，始めは「リーダー」である保護者に身体性を預け重ねることが多かった８か月の乳児が，９か月くらいになると，リズムを模倣することを覚え，11か月くらいになるとブロックという道具を使って「ブロックを鳴らす」ことを誘うようになくる。これらは小林宗作（1978）[1] が述べている，リズム意識の目覚めとも密接につながっていると考えられる。この様にリズムを他と同調するためには，まず乳児は生きるすべとして人とリズムを合わせ次第にリーダーとフォロアーの役割が分担されてく。その過程でリズム意識の目覚めと相まって「リーダー」「フォロアー」の関係性に変化が生じていくと考えられた。

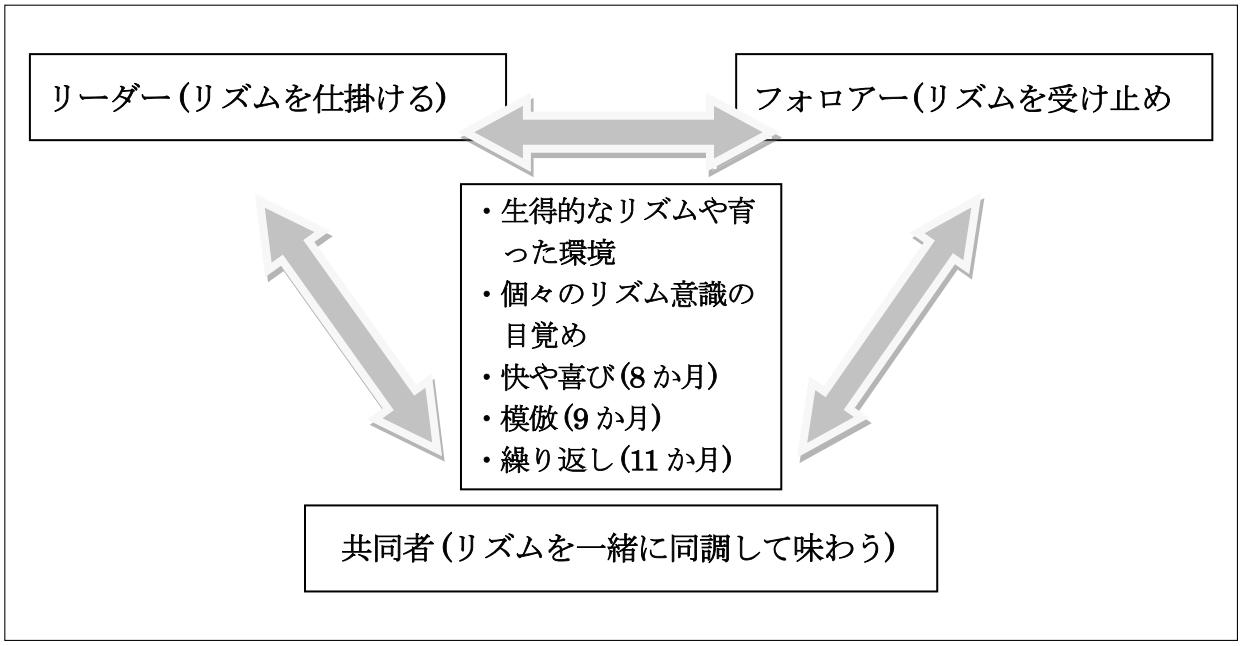

図７　事例から見えた乳児が他とリズムを繰り返し共有する過程

３．乳児が「リーダー」や「フォロアー」になるとは

対象乳児は，それぞれの特性に応じて「リーダー」や「フォロアー」になり，楽しみながらリズムを共有していた。これらに対して観察した保育者は以下のような感想を述べている。

①　A保育者（20代）

「初めは乳児が要求しているので，こちら側から何かしてあげなければ感じていました。このようにリズムを考えて子どもの様子を観察すると，今は向こうからもそれぞれが違った形でこちらに働きかけていることが見え，一緒リズムを感じる楽しさが分かりました。」

②　B保育者（30代）

「観察すると，子どもが泣くだけでなく目で追ったり，目を合わせたりと頻繁にサインをくれて，そのサインから私が動いているのが分かって，どちらがリーダーで，フォロワーでなく同等のように感じています。」

③　C保育者（50代）

「乳児は本当に身体を使って語っていて，リズムが合うと安心したり，満足げな表情が顔にまで出てくることに改めて気づきました。世話を必要とする乳児は，親や世話をしてくれる人の行為にもリズムを合わせてくれていることにも改めて気付き，感動しました。」

このように乳児に対して，保育者が「何かしてあげたい，要求を満たしてあげたい」と考えるのは当然で，必至のことでもあるが，乳児は「フォロアー」となるだけでなく，共同者にもなり「リーダー」になるサインを表していることを，乳児担当の保育者は述べている。デキャスパーとシガフーズ（1983）[4] は生後３日の新生児８名の実験から，この時期既に吸啜のテンポを速くできるという結果を述べているが，そこからも乳児のリズムへの鋭い感覚や力を伺うことが出来る。今回の事例から検討しても，どんなに幼い乳児でも，それぞれが興味を持つ特性

が見られ，例えばA子（8か月）は穏やかなリズムに興味を示し，反応して保育者に静かにすり寄っているのに対してM男（10か月）は活発なリズムに反応し，また自らも元気に音を出し，リズミカルに動くことが多いと観察できる。また例えば資料3・事例3のS児は，乳児であるがブロックを使って自分からリズムを合わせようと保育者を誘ってサインを表し，音やリズムを探求し，それを自ら合わせたり，リズムに合わせようと探求している。このように乳児であれ，その自分の興味や必要感に応じてリズムを選別したり探究していて，そこには生得的な自分のリズムや育った環境の影響があるのだろう。そういった乳児の特性に気付き，受け止めていくことが大切である。ドロシー・マクドナルドら（2003）は，「拍を認識していること」を証明する能力は，リズムを知覚する能力だけではなく，より発達した調整力をもたらす身体的な成熟にも依存している」と述べる。[1]乳児期にそれぞれが「フォロアー」「リーダー」「リズムを共有する共同者」の役割を自分なりに経験して，自らの特性に応じてリズムを感じ，満足していく経験は，何らかの形で調整力をもたらす身体的発達に寄与すると考えられ，今後の「生きる力」の根っこをつくることになると考えられる。

V　結論

岩崎らが養育者とリズムを一致するためには，リーダーとフォロアーの役割を述べていることを基として，保育者と乳児がリズムを合わせる過程を観察した結果，対象児は乳児なりに，リズムの「フォロアー」や「リーダー」になってリズムを合わせていることが観察された。対象児たちがリズムを共有するのは，生得的なものや環境だけではなく，「快」や「喜び」などの動機も観察された。

中村雄二郎（2000）は自己が他の世界へのつながりの持つには，体性感覚を中心とした諸感覚の統合による他との共感が必要であり，それは自己が他の世界と生命的に触れ合う共振という現象によって捉えられると指摘する。この人間が他と相互にリズムを重ねる「共振」という考え方は，本研究で乳児が「リズムを同調する，共有する」と同様のことであると考えられる。乳児は諸感覚を使って一生懸命他とつながり，リズムを共にすることに大きな喜びを感じていることが，今回の研究でも見えた。そして，それらは，リーダーやフォロアーを超えるものを求めているのであり，乳児にとって最も根源的な喜びでもあると推測できた。

今回の研究では未だ対象児数も少ない。乳児のリズムの事例研究をするには，対象児の持つ性格や男女差，さらに家庭環境も考慮すべきであろう。これらを今後の課題として，さらなる研究を進めていきたい。

〈謝辞〉
研究に協力頂いた保育園と園児の皆さま，保育者，保護者の皆さまに心から感謝を申し上げます。

（引用文献）

（1）　小林宗作「総合教育リズム概論」日本ライブラリ，1978
（2）　岩城諒他「ヘテロなエージェントによるリズムパターン同調プロセスのRNNPBを用いたモデル化」・電子情報通信学会技術研究報告.2014-BIO-38（41）, 1-4, 2014-06-18
（3）　梅本堯夫「子どもと音楽」東京大学出版会，2003，p 59
（4）　DeCasper. A.J & Sigafoos.A,D. The intrauterine Heartbeat:A potent reinforcer for newborns. Infant
Baha-vior and Development.1983.6.12 – 25
（5）　ドロシー・T・マクドナルドら「音楽的成長と発達」渓水社，2003，P 57 P 100
（6）　中村雄二郎「感性の覚醒」岩波書店1975 p110

資料　乳幼児のリズム（０歳児が他と感じるリズムに着目して）

資料１　　Ａ子（8か月～9か月）

事例１（10時）－泣いている－ ㋥保育者　抱き上げて横抱きにして顔を見て「とんがりやまのてんぐさん」を歌いかける ㋣Ａ子　保育者を見て保育者の歌を聞き，次第に身体 ●はじめは保育者がリーダーであったが，Ａ子も保育者の歌を聞き，安心して身体をあずけて，音やリズムを一緒に感じ楽しんでいるまる ㋣は泣きやみ，㋥に身体を預けて歌を感じる	**事例２（13時）－ぐずり泣き－** ㋥保育者　膝の上で前向き抱っこ　ガッタンコ　ガッタンコー体をゆする ㋣Ａ子　泣いている　→　身体をゆする　→　背中を保育者に着ける ●泣き止み一緒に身体を揺する ㋥㋣は一緒に身体を揺すり，リズムを楽しむ
事例３（15時）－わらべうた－ ㋥保育者　Ａ子をのぞき込んで「ちょちょちあわわ」を身体性を付けて行う　2回目は，Ａ子の手を取って一緒に行う ㋣Ａ子　保育者に身体を委ねて行い保育者を見て「ブフフ」と笑う ●保育者がリーダーで，手遊びを仕掛け，それにのってＡ子は身体を預けて保育者と共に手遊びを味わい笑う ㋥㋣は一緒に身体を重ねてリズムを楽しむ	**事例４（16時）－童謡－** ㋥保育者　集まりに前抱っこをして座る。『手をたたきましょう』を1,2歳児と一緒に歌うときに「たたきましょ，とんとんとん」の箇所で両肩をとんとんとん」と叩く ㋣Ａ子　保育者がトントントンとリズムに合わせて叩くと笑って，身体を速く上下に振る。 ●保育者と共に歌のリズムを味わい，自分でも身体を揺らす ㋥㋣は一緒に身体を振ってリズムを楽しむ
事例５（9時）－わらべうた－ ㋥保育者　おむつ交換の後Ａ子の身体を階段に見立てて「かいだん上ってコチョコチョ・かいだん降りてコチョコチョ」をして遊ぶ ㋣Ａ子　保育者を見ながらにこにこして，手足をバタバタして喜ぶ ●保育者がリーダーで，身体遊びを仕掛け，それにのってＡ子は身体をバタバタと動かして楽しむ ㋥㋣は一緒に身体を揺すりリズムを楽しむＡ	**事例６（10時）－童謡－** ㋥保育者　眠そうな為バウンサーを揺らせて「とんぼのめがね」を歌う ㋣Ａ子　保育者を見ているが，次第に身体の力が抜けて眠る ●保育者がリーダーで，リズムをとりＡ子は保育者と一緒にリズムを味わいながら寝る ㋥㋣は一緒に歌を味わう
事例７（13時）－リズム遊び－ ㋥保育者　午後の午睡前，ゆっくり抱っこして膝にのせて向かい合い，ゆらゆらして身体を動かす。 ㋣Ａ子　保育者を見て笑い，身体を上下や左右に動かす ●保育者がリーダーで，リズムをとりＡ子は保育者と一緒にリズムを味わっているようである ㋥㋣は一緒に身体を密着させてリズムを体感している	**事例８（16時）－つかまってゆらゆら－** ㋥Ａ子　バウンサーに保育者に支えられてつかまり立ちをして，ゆらゆらして遊ぶ ㋣Ｓ男　ハイハイしてきたＳ男も保育者に支えられて一緒につかまり立ちをして，保育者が手伝って揺らすとＡ子が泣き始める ●Ａ子がリーダーでリズムをとりＳ男が加わるが（不安になったのかリズムが合わなかったか，一人で保育者とやりたかったのか）泣き出す ㋥は保育者のもとで一人でリズムを楽しんでいるが，㋣が来てもいっしょに楽しまず，泣いてしまう

資料２　　M男（9か月）

事例１（9時　おむつ替え）－身体をさすって－ ㋥ 保育者　おむつを取り替えるときに，嫌がり動きまわるので，待ってってねー，と言いながら身体をさすり（待っててねー待っててねー）と小さな熊を渡す ㋜ M男　動き回る　→　熊をもってじっとさすられ，保育者の声を聴きながら保育者を見る　→　おむつを取り替える間静かにする ●言葉掛けと，身体をさすることを感じ，おむつの取り換えを静かに協力して待つ　保育者を目で追う ★㋥のリズムと感覚が㋜にも伝わり，一緒に協力する	**事例２（10時　集まり）－童謡を友だちと－** ㋥ M男　保育者が弾いているピアノ「とんぼのめがね」を聞いて身体を横に振る ㋜ R男　横に座っていたR男もそれを見て一緒に身体を揺する ●M男が身体を振ってピアノを感じているのを見て，R男も身体を揺する ★与えられた音とリズムを㋥の身体性を見て㋜も行うことで一緒の音やリズムを共有する
事例３（13時　昼寝）－身体をトントン－ ㋥ 保育者　昼寝の時に眠れずに布団の上で手足を動かす。保育者がおなかをトントンする ㋜ M男　保育者がトントンすると，自分でも真似をしておなかを少しトントンして寝込む ●保育者のトントンを感じ，一緒にトントンして安心する ★㋥のリズムと㋜の気持ちが合わさってM男は寝る	**事例４（16時　午後遊び）－音声のやり取り－** ㋥ M男　「アッアッウー」と大きな声を出しながら身体を揺すって遊ぶ ㋜ 保育者　真正面に行って真似して「アッアッウー」と顔を見て声を出すと，それを聞いて同じように「アッアー」と声を出し。交互に会話のようになる ●Mが発した喃語を保育者が真似ることで音のやり取りを楽しむ ★㋥であるM男にしたがって模倣することで㋜の保育者もいっしょにやり取りができる
事例５（10時　朝の遊び）－CD　体操－ ㋥ F子　保育者がF子に指さされたため，ＣＤプレーヤーで体操をかけ，ジャンプしている ㋜ M男　F子がジャンプしているのをニコニコしてみている，そしてベッドにつかまり立ちをして，身体を上下に動かす ● F子の踊りやジャンプを感じ，一緒に身体を上下に動かして気持ちよさそうにする ★㋥の踊る楽しさが㋜の気持ちまで伝搬し，M男も一緒に音やリズムを共有する	**事例６（11時　自由遊び）－ブロックで音－** ㋥ M男　床でハイハイをして（まだゆっくり）赤いブロックを見つけ「アーアー」といってブロックで床を暫く叩く ㋜ S男　その音を聞きM男の方を見て，自分の持っていたままごとを床に打ちつけて音を出す ●M男の音を聞き，S男もままごとで音を出している。合わせようとしてはいないが，互いを見ているところから楽しんでいる様子 ★㋥の楽しそうに音を鳴らすことが㋜に伝わり音を重ねる
事例７（15時　お昼寝後）－Ｔ子と－ ㋥ M男　ベッドの端で寝ながらミルクを飲み，足でベッドのはしをトントンと蹴っている ㋜ Ｔ子（2歳0カ月）　それを見ていたＴ子がベッドのところに行ってベッドの中に手を入れてM男を「トントン」と同じようにたたく M男は満足げにミルクを飲んでいる ●意図してはないが，Ｔ子はM男のリズムを真似てM男をトントンしてリズムを一緒に共有している ★㋥であるM男を模倣して㋜のＴ子も参加してくる	**事例８（15時半　おやつ後）** ㋥ M男　おやつのミルクを飲み終えて，哺乳瓶の乳首をもって「ウー」と振り回す ㋜ Ｃ男（９か月）隣に座って，すでにおやつが終わって遊んでいたC男がそれを見て手を上下に振り声をだし笑い，M男もC男を見て機嫌よく振り回す ●M男がリーダーでそれを見ていたＣ男はM男と一緒にリズム，㋜として参加して楽しんで笑う ★㋥㋜は幼いながら，瞬時ではあるが互いのリズムを楽しむ

資料３　　Ｓ男（11か月）

事例１（10時）－拍手をする－ ㋥ Ｓ男　少し離れている保育者の顔を見て目が合うと，笑顔で拍手のように手をたたく ㋕ 保育者　Ｓ児のそばに行き，前に座り，同じように手を叩くと笑顔で嬉しそうになんども繰り返し一緒に叩く ●ここでリーダーは誘ったＳ男である。誘いにのって保育者が行って一緒に叩くと笑顔で歓迎して手を叩く ★㋥が㋕を呼び，よばれた㋕が加わることで喜び拍手を共有する	**事例２（11時）－体操－** ㋥ 保育者　アンパンマンの歌を歌い踊って見せる ㋕ Ｓ男　曲に合わせて，振り付けに手足をばたばたさせたり，何ちなく覚えている ●リーダーがＳ男たちの前でわかりやすい曲に振りつけをして踊ることで，Ｓ男も音や振りを一生懸命行い身体を動かす ★㋥がＳ男の好きなアンパンマンを踊ることが㋕に伝わり，リズムや音を共有する
事例３（13時　給食後）－ブロック鳴らし－ ㋥ Ｓ男　ブロックを両手で持ち笑顔でカシャカシャ叩き合わせようとし，たまに当たると喜ぶ ㋕ 保育者（筆者）傍に行き同じようなブロックをもって，前に座り叩き合わせる ●筆者と一緒に鳴らそうとする。ブロックが当り，筆者もいっしょに叩き合わせてカシャカシャすると「ウオー」と声をあげて笑う ★㋥が真剣に音を出しつい㋕も加わりリズムや音を一緒に出すと，さらに㋥が意識して音を鳴らし，筆者の音も聞いている	**事例４（16時　降園前）－とんぼのめがね－** ㋕ Ｉ男（２歳４か月）と保育者が「とんぼのめがね」CDに合わせて両手をつないで踊る ㋥ Ｓ男　傍に来て身体を動かす。Ｉ男がＳ男と両手をつなぎ，身体を縦に揺するとＩ男も身体を縦にゆすることを繰り返し笑う ●Ｉ男が温踊りの音楽を自由に保育者と楽しんでいるところに，Ｓ男も参加して身体を揺すり，リズムを合わせようとする ★㋥が踊っている姿を見て㋕が加わり，CDに合わせて身体を動かす
事例５（９時）－ガラガラで遊ぶ－ ㋥ Ｓ男　ベッドに寝ながら，手に音のなるガラガラをもって大きく振って音を出して遊んでいる ㋕ Ｋ子（１歳６カ月）がタンバリンを持って，ベッドのそばに行き好きなように叩く。保育者が褒めると嬉しそうにさらに叩く ●Ｓ男の音遊びにＫ子が参加して，短い時間だが合奏のようにする ★㋥が道具を使って音を出し㋕も道具をもって加わり合奏のように音を一緒に出す	**事例６（10時）－友だちの遊びに参加－** ㋥ Ｊ子（１歳６カ月）が積み木ができたと手を何回か叩き上手を表わす ㋕ハイハイをして，保育室中を自由に動き回っていたＳ男がＪ子のところに行って真似して手を叩くとＪ子もいっしょに叩く ●Ｊ子の拍手の音や姿に気が付いたＳ男が参加して一緒に拍手をする ★㋥できたことを喜んで拍手しているところに㋕加わり拍手を合わせるようにする
事例７（13時）－手をグーパーに（おむつ交換）－ ㋥ 保育者　おむつ交換の時にグーパー，グーパーと声をかける ㋕ Ｓ男　保育者の顔を見て手を握ったり開いて，ニコッと笑う ●保育者がリズミカルに声をかけておむつ交換することで，Ｓ男もリズムに乗って，手を動かす ★㋥のリズムと言葉が㋕にも伝搬して，一緒にリズムを味わっている	**事例８（16時）－ハイハイで遊ぶ－** ㋥ 保育者が部屋の向こう側にいるＳ男を「Ｓちゃんおいで」と呼び「Ｓちゃん，Ｓちゃん」と拍手をしながらリズムを付けて呼ぶ ㋕ 座ってハンカチで遊んでいたＳ男は保育者の呼びかけに気づいて笑顔で，リズムにのるようにハイハイをしてくる。保育者に抱っこをしてもらい笑う ●保育者のリズミカルな拍手にのってＳ男もた笑顔でハイハイして保育者のところに行く ★㋥のリズムが㋕の励ましになり一生懸命保育者のもとにくる